

23区の高齢者率（総人口に対する65歳以上の人口の割合）を見ると、北区、足立区、葛飾区では過去30年間で9%前後から25%前後に高齢者率が上昇している（図表2-14）。

対して、中央区は1985年には高齢者率が14%と高かったのに2015年は16%と、あまり変わっていない。それどころか1995年からずっと減っている。高齢者の絶対数は増えたはずだが、それを補ってあまりある若い世代が大量に流入してきたからである。

また、千代田区、港区も高齢者率が近年減っている。渋谷区、新宿区、文京区、豊島区も高齢者率の増え方がゆるやかである。現役世代である生産年齢人口が都心に集中し、周辺の区部、あるいは郊外などでは逆に現役世代が吸い取られて、高齢者ばかりになる、という状況が進んでいるのである。

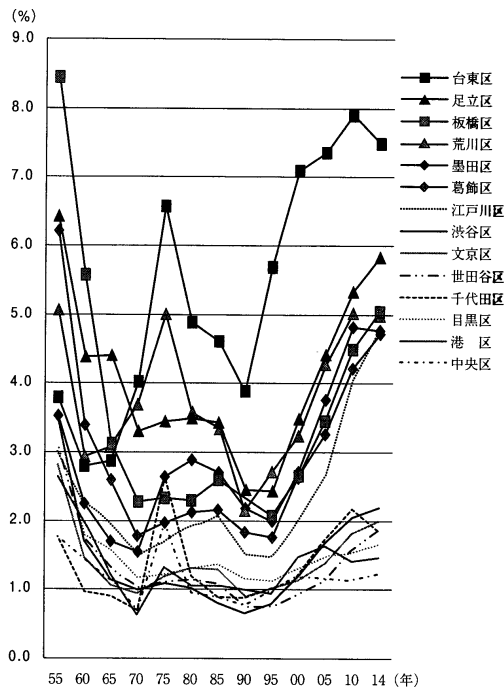
とりわけ上昇しているのが台東区であり、

75年以降はつねに被保護世帯数の比率がトップであり、かつ70年以前よりも比率が高い。

・・・

若くて稼げる世代が23区内の山の手からはもちろん、地方からも23区の下町からも都心に移動し、現役を退き、高齢者となった稼げない世代が下町や地方に残るという構造が透けて見える。

下町各区では生活保護を受ける世帯が増えている
図表2-16 主な区の全世帯数に対する生活保護被保護世帯の比率の推移



東京都ホームページ資料より三浦展作成

都心では今、子どもの数が増えている。戦後一貫して、子どもができると都心から郊外へと人口が流出する傾向が強かった。だが近年、23区内にとどまって子どもを産み育てる

人が増えたのであり、都心ほどその傾向があるのだ。

・・・

合計特殊出生率（女性が一生の間に産む子どもの数の理論値）を見ても、港区が最も高く1・45。ついで中央区が1・44、江戸川区が1・43である（図表4・2）。

自然減少している、つまり出生数より死亡数が多い足立区、荒川区、北区ですら、出生率は1・3程度と23区内では高めである。

対して豊島区、杉並区、目黒区、中野区、新宿区、渋谷区、世田谷区といった、西側副都心とその沿線の地域では出生率が低い。

本来これらの地域は大正末期以降開発された郊外住宅地であり、中央区や江東区よりも緑も多く、健康的で、子育てに相応しい住宅地のはずである。ところが出生率が低いのである。

また、これらの西側住宅地は、第3章で見たように、未婚女性率が比較的高い地域であった。イメージがよく、消費や文化の場所が多く、楽しく暮らせそうな街が多いからである。だが皮肉なことに、そうした地域に住む未婚女性はずっと未婚のままであり続けがちなため、出生率が低いということになるのだ。

・・・

1・0では1世代ごとに人口が半減する

・・・

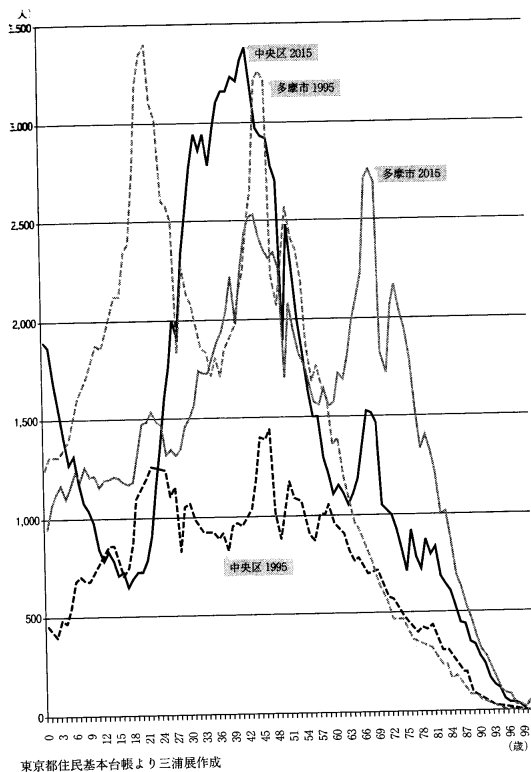
また三多摩で人口規模の大きい八王子市、立川市は1・3台しかない。多摩ニュータウンのある多摩市はたった1・16である。

つまり今、住宅地やニュータウンが嫌われているのだ！

郊外の出生率が低迷している理由は、30代の人口が減ってしまったことにある。中央区と多摩市はほぼ人口が同じなので、年齢別に人口をグラフにすると違いがよくわかる。1995年と2017年の人口を比較すると、95年は多摩市が団塊世代も団塊ジュニアもたくさんいて、ほぼどの年齢でも中央区の2倍以上の人口がいた（図表4-10）。

ところが17年は、中央区のほうが25～44歳にかけてずっと多いし、未就学児も多い。対して多摩市は50代以上が中央区より多く高齢化が目立つ。有配偶女性についても、中央区のほうが多い。かつ出生数も中央区のほうが多いのである（図表4-11、12）。

20年で逆転した中央区と多摩市
図表 4-10 中央区と多摩市の年齢別人口 (1995年と2017年)



横軸は年齢。1995年と2015年を比較しているので変化がわかる。
両端の中央区と多摩市の状況を見ると、その違いにビックリする。

このように見ると、同じ郊外で育った女性でも、学歴が高く正社員になった女性は、高い所得を得て都心に流出し、正社員男性との結婚のチャンスが増え、実際結婚すると出産のチャンスも多い。「いい会社」に勤めたほうが育児休暇などの福利厚生も充実しているからだ。

他方、学歴が低いか、就職氷河期か、何らかの理由で正社員になれなかった女性は、郊外の親元にとどまり、ますます高い所得を得るチャンスが減り、結婚のチャンスも減り、結婚をしても夫の所得が低ければ子どもを産むチャンスも減る。

極端に言えば以上のような「格差」が同じ郊外出身の女性にも生まれているのかもしれない。この点については私は未研究なので、検証は今後の課題としたい。

特に多摩ニュータウンは、国家の一大プロジェクトなのだから、このまま人口減少させて巨大な廃墟になるのはいは私には到底思われない。だが、もしこのまま高齢化し、子育て世代が減り、衰退ニュータウンになっていくとしたら、高度成長期という一時代のためだけにつくらただけの地域だということになってしまう。それでは炭鉱の町や重化学工業時代の工場街と同じである。時代が変われば人がいなくなってしまうのだ。